

地域の人々が、訪問者の視点で、
訪れて歩いて巡りたくなる
街並みを考えるためのアイデア

草津市都市計画部都市計画課

問題意識

- 草津市は、現時点では人口増加傾向にあるが、将来的には人口減少傾向に転換すると予測されている。それに向けて、立地適正化計画、地域再生計画、地域公共交通網形成計画（3計画）を策定し、コンパクトシティ化を進めている。
- しかし、説明会を開催しても参加者が少なく、この課題に対して市民の関心が大きな広がりとなっていない。3計画では、居住目標値等を設定しているが、目指すべき街並みを共有するところまでは至っていない。
- 旧街道など重点地域はまち歩きワークショップ等を開催し、街並みについて検討している。その他の地域では、地域の人々が自分たちのまちの街並みをどうしたいかを来訪者の目線や、文化財や歴史などの様々な専門家の意見を参考に主体的に考え、自分たちの地域に誇りを持ってもらいたいと考えている。
- そのためには、①計画を知る、②地域を知り、お互いを知る、③リーダーや担い手を見つける、④地域の課題を発見し、共有する、⑤解決策を考え、実行するプロセスが重要であり、各段階で必要となる情報や知識や技術や人材を得るための仕組みが必要と考えている。
- そこで、このようなプロセスを構成する機能などについてのアイデアを求める。

『コンパクトシティ・プラス・ネットワーク』のまちづくりに向けた草津市の取組

草津市では現在、人口減少や高齢化が進行する将来においても持続可能なまちであり続けるために、『コンパクトシティ・プラス・ネットワーク』のまちづくりに向けて、

- ① 立地適正化計画 (市街化区域の計画)
- ② 草津市版地域再生計画 (市街化調整区域の計画)
- ③ 地域公共交通網形成計画 (公共交通の計画)

の3計画の策定に取り組んでいます。

市街化区域？

市街化調整区域??

「コンパクトシティ・プラス・ネットワーク」って何??



人口減少・高齢化の進行により、まちに生じる問題

生活関連サービス施設の縮小

病院が遠くなって不便だわ。
買物も車がないといけなくなってしまった。



利用者が減少すると、身近な商店等が閉店し、利便性やまち全体の魅力が低下するかも・・・。

地域コミュニティの希薄化

近所付き合いがなく寂しい。
祭りや消防団などの地域活動の担い手が減ってしまった。



人が減って、地域でのつながりが弱くなりそう・・・。

空き家・空き地の増加



いつ壊れるか不安だ。
防犯上や見た目もよくないし。

管理（草刈）してくれないかな。虫も発生するし。



空き家空き地が増えて、防犯・安全や景観が悪化するかも・・・。

公共交通の減便・撤退

前は30分に1本あったのに不便になった。
今後は、廃止されないといいけど。



利用者の減少で、公共交通がなくなるかも・・・。外出や歩く機会が少なくなるかも・・・。

その他（公共施設の老朽化）

財源がなく道路や施設の維持管理ができないよ。
今より利便性が低下するかも。



公共施設やライフラインの維持管理や建替えが適切に出来ない・・・。

今後の人口減少と高齢化により
問題はさらに深刻化！！

お店やバスの本数が減って、
車が運転できないと
病院やお店にいけなくなる！？

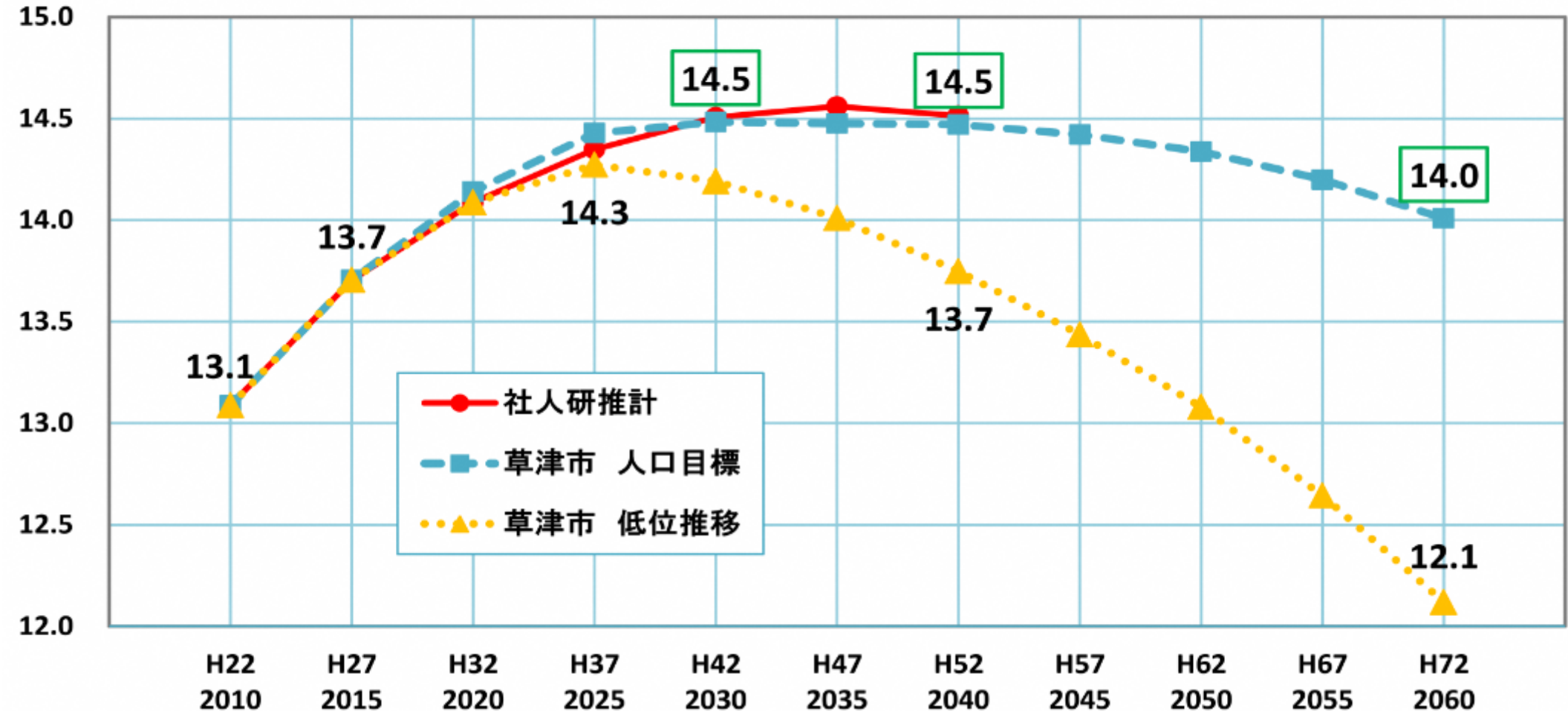


草津市の将来人口推移（推計）

将来人口

2010年 約13.1万人 ⇒ 2030年～2040年 約14.5万人（※2040年以降は人口減少）
⇒ 2060年 約14.0万人

(万人)



(出典：国立社会保障・人口問題研究所（社人研）将来推計人口、草津市人口ビジョン)

『コンパクトシティ・プラス・ネットワーク』について

コンパクトシティ

【市街地拡大の抑制】

低密度な市街地の拡大を防ぐため、居住の集約化などを図ることにより、市街地の人口密度を維持する。

【生活に必要な施設の集約】

生活に必要な施設（医療や商業施設など）を集める。



ネットワーク

【移動手段の確保】

生活に必要な施設が集まっているエリアに行くための公共交通手段を確保する。

【多極型】

中心拠点だけでなく、郊外部の生活拠点も含めた多極ネットワーク型のコンパクト化を目指す

【全人口の集約ではない】

例えば、郊外部の集落で昔から住んでいる人々がそこに居住し続けることは当然のこと

【誘導による集約】

長期的な視点で時間をかけて緩やかな集約を図る

コンパクトシティをめぐる誤解・・・

【一極集中】

市町の最も主要な拠点1か所に全てを集約

【全人口の集約】

全ての居住者（住宅）を一定のエリアに集約することを目指す

【強制的な集約】

居住者・住宅や施設などを強制的に短期間で移転させる